

---

## SSU フォーラム 「豪州の経済安保における途絶と多元化」

2024年2月27日（火）15:30～17:40（ハイブリッド）

概要

---

世界の経済情勢は近年著しい変化を遂げています。経済的・技術的覇権を巡る米中間の競争の激化および新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によるサプライチェーンの混乱を背景に、オーストラリアを含む各国は、自国の経済安全保障上のリスクを特定、評価、管理するための施策を打ち出しています。では、オーストラリアが直面する経済安保上の重要課題とは、どのようなもののでしょうか。また、同国は最近経験した経済の途絶の影響を緩和するため、どのような方法をとっているのでしょうか。経済安保リスクを管理する中でオーストラリアが得た経験から、他国が学べる教訓はあるのでしょうか。

2024年2月27日、東京大学未来ビジョン研究センター安全保障研究ユニットは、オーストラリア産業グループの研究・経済部門ディレクターであるジェフリー・ウィルソン氏をお迎えし、オーストラリアの経済安全保障の現状について基調講演をいただきました。冒頭、SSU ユニット長の高原明生教授（東京大学）から開会のあいさつがありました。ウィルソン氏による基調講演の後、佐竹知彦准教授（青山学院大学）、久野新教授（亜細亜大学）、和田照子（日本経済団体連合会国際経済本部長）も加わり、質疑応答が行われました。司会は、佐橋亮准教授（東京大学）が務めました。

### 基調講演

冒頭ウィルソン氏は、最近になってコロナ禍によって経済が混乱するまで、オーストラリア経済は、幸いなことに約三世代にわたり比較的安定していたと述べました。オーストラリア経済の持続的安定の要因として、オープンで、ルールに則った、米国主導のグローバルな貿易システムを挙げるとともに、急成長するアジア市場による一次産品への需要が何十年にもわたり途切れることなく続いたこと、とりわけここ20年間中国からの需要に支えられたことを指摘しました。しかし、コロナ禍の間、同国の経済安全保障は弱体化してしまいました。その背景には、ウィルソン氏が「三つの途絶」と呼ぶものがあります。第一は、オーストラリアの主な輸出品のほぼ全て（鉄鉱石以外）に対する中国による脅迫的な貿易制裁です。第二はコロナ禍のサプライチェーンの混乱により不可欠な輸入品が不足したこと、そして第三は、オーストラリア経済の脱炭素化がエネルギー安全保障にもたらした影響です。

ウィルソン氏によると、これらの途絶や混乱をきっかけとして、オーストラリア政府および経済界は、顕著な偏りが見られた同国の貿易プロフィールを見直し、貿易品の面でも、貿易相手国の面でも、多元化する必要性を認識することとなったのです。対立が激化するグローバル経済においては、限られた相手と限られた種類の製品の貿易を行っていると、「一つの籠に全ての卵を入れるな（一つのことに全てを賭けるな）」ということわざにもある通り、結局のところ、国全体をより大きな市場リスクおよび政治リスクにさらすことになることになると、ウィルソン氏は説明しました。

オーストラリア政府は、同国の産業および経済を多角化するため、二通りの方策を講じていると、ウィルソン氏は指摘しました。第一に、国家再生基金（National Reconstruction Fund）と産業成長プログラム（Industry Growth Program）を通じ、政府は 7 つの重要セクターを優先的に支援、再生可能技術や低排出技術に投資するなど持続可能な経済成長と繁栄を推進しています。第二に、中国以外にも輸入相手国や投資機会を開拓するため、東南アジア各国など新たな貿易パートナーを模索しています。では、これまでのところ、貿易多角化戦略はうまく運んでいるのでしょうか。ウィルソン氏によると、成功している面とそうでない面があり、石炭、大麦、ロブスターといった製品は、中国による制裁を避けて新たな輸出先を開拓できましたが、ワイン、木材、園芸産品といった製品については、まだ代替りの輸出先市場を確保するのに苦労しているということです。

最後にウィルソン氏は、経済安全保障上のリスク管理にあたって、他国がオーストラリアの経験から何を学べるかについて、考えを述べました。ウィルソン氏が一般に当てはまる教訓として挙げたのが、国の経済がどれほど安定しているように思われても、貿易および投資相手国を多角化することにより、経済安全保障リスクを低減することができるという点です。このような見解に基づき、各国の政策立案者は、経済安全保障上のリスクを管理したいなら、自国の貿易プロフィールに偏りがなく、柔軟性を保っているかに注意を払うべきだと、氏は促しています。では、同国の経験は、他国にどの程度あてはまるのでしょうか。限られた一次産品の輸出に頼るオーストラリアの貿易プロフィールはリスクが高く、その点を考えれば、例えばカナダやニュージーランドなど、類似の貿易構造を有する国にしか、参考にならないかもしれないと、ウィルソン氏は述べました。

## パネルディスカッションと質疑応答

ウィルソン氏の発表に続き、三名のパネリストが加わりパネルディスカッションが行われました。佐竹准教授は、安全保障の専門家として、今日オーストラリアの経済安全保障に影響を与えている三つの戦略的考慮事項について論じました。中国による経済的威圧への対策、オーストラリアの重要インフラ及び情報技術の保護、そして、持続可能な経済成長の維持の三点です。経済多角化戦略の長期的実現可能性に疑問を投げかけつつ、例えば移民などの施策によって同国の持続可能な経済成長に貢献できないかとの考えを示しました。佐竹准教授は、中国との貿易の相互依存性を利用して、すなわち、オーストラリア産鉄鉱石への中国の依存を逆手にとって、中国による経済的威圧に対抗することはできないかと質問しました。これに対し、ウィルソン氏は、鉱物資源だけでは十分な経済的影響力を生み出し得ないと指摘して、鉄鉱石の武器化に反対しました。鉄鉱石を戦略的武器として利用すれば、「相互確証破壊」につながり、やがてオーストラリアの経済を不安定化することになると主張したのです。

この議論に一石投じたのが、経済学者である久野教授です。自国の経済安全保障の確保を狙いとした補助金その他の保護主義的産業政策が、かえって経済安全保障上のリスクをもたらしうる可能性を指摘しました。教授によると、中国が自国企業の競争力を強化するため多額の産業補助金をつぎ込む中、中国によるグローバル市場の支配を防ごうと、各国が補助金競争に加わり始めており、世界は現在、補助金による囚人のジレンマに直面しています。世界的な補助金競争が自由貿易体制にもたらす危険について、各国が認識を高め、議論する必要があると警鐘を鳴らしました。さらに久野教授は、経済的威圧に話題を移し、経済的威圧の定義について疑問を呈するとともに、西側による中国からの「デリスキング」あるいは「デカップリング」は、中国に対する経済的威圧には当たらないのかと問いかけました。また、オーストラリアでは、EU の「反威圧措置（Anti-Coercion Instrument : ACI）」

と同様の規則の導入を検討するつもりがあるのかを尋ねました。これに対し、ウィルソン氏は、WTO の紛争解決手続きを利用するとともに、経済的威圧に政府が対応するにあたって、産業界による支援の重要性を強調するという現在の取り組みを継続する可能性が高いことを示唆しました。

日本の経済界から参加してくださった和田氏は、経済安全保障を強化し、経済的威圧に対抗するための日本政府の取り組みを日本の産業界がどう見ているかを概説しました。政府が 2022 年に経済安全保障推進法を施行するより前からすでに、日本の経済界は、生産拠点の分散化など、コロナ禍中の経済リスクの回避と管理に乗り出していたと指摘しました。和田氏はまた、日本政府が二国間あるいは多国間の貿易・投資協定ネットワークの拡大や経済対話を通じて貿易相手国を多角化するとともに、重要鉱物の供給源を多様化することの重要性を強調しました。中でも、レアアースの代替物を探す上で技術革新が不可欠な役割を果たすことを指摘しました。輸出規制については、似通った技術を持つ国同士で政策をすり合わせ、重要技術を守るべきだと呼びかけました。各国政府は、例えば、ビジネスビザの発行を遅らせるなどの「グレーゾーン」の経済的威圧措置にいかに対応すべきなのでしょう。この質問に答えて、ウィルソン氏は、経済的威圧に対処するには、その全体像を正しく理解するため、産官の緊密な連携が求められると論じました。まさにその目的のために新たに設置された G7 の調整プラットフォームなどを通じて、価値観を同じくする国の間で迅速な情報共有を行うこともまた、経済的威圧に対抗する上で欠かせません。

最後に、フロアから質問を募りました。オーストラリア政府が公表する「国益にかかわる特定重要技術リスト」の重要性について尋ねられたウィルソン氏は、同リストは拘束力を持たないが、投資を呼び込むための市場へのメッセージであると説明しました。なぜ中国はオーストラリアに対して激しい経済的威圧を行ったのかと問われて、ウィルソン氏は、オーストラリアを米国の同盟国と見る中国の政治体制内のお決まりの思考を挙げました。また、この問題を扱った中国当局者の意思決定プロセスに混乱があった可能性など、他の要因も絡んでいるだろうと指摘しました。ウィルソン氏は、AUKUS 協定の結果、防衛品・非防衛品に関するオーストラリアの輸出管理体制への新たな変更についての議論など、他の話題にも触れました。

\*本会議は外務省の後援の下で開催いたしました。